

各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

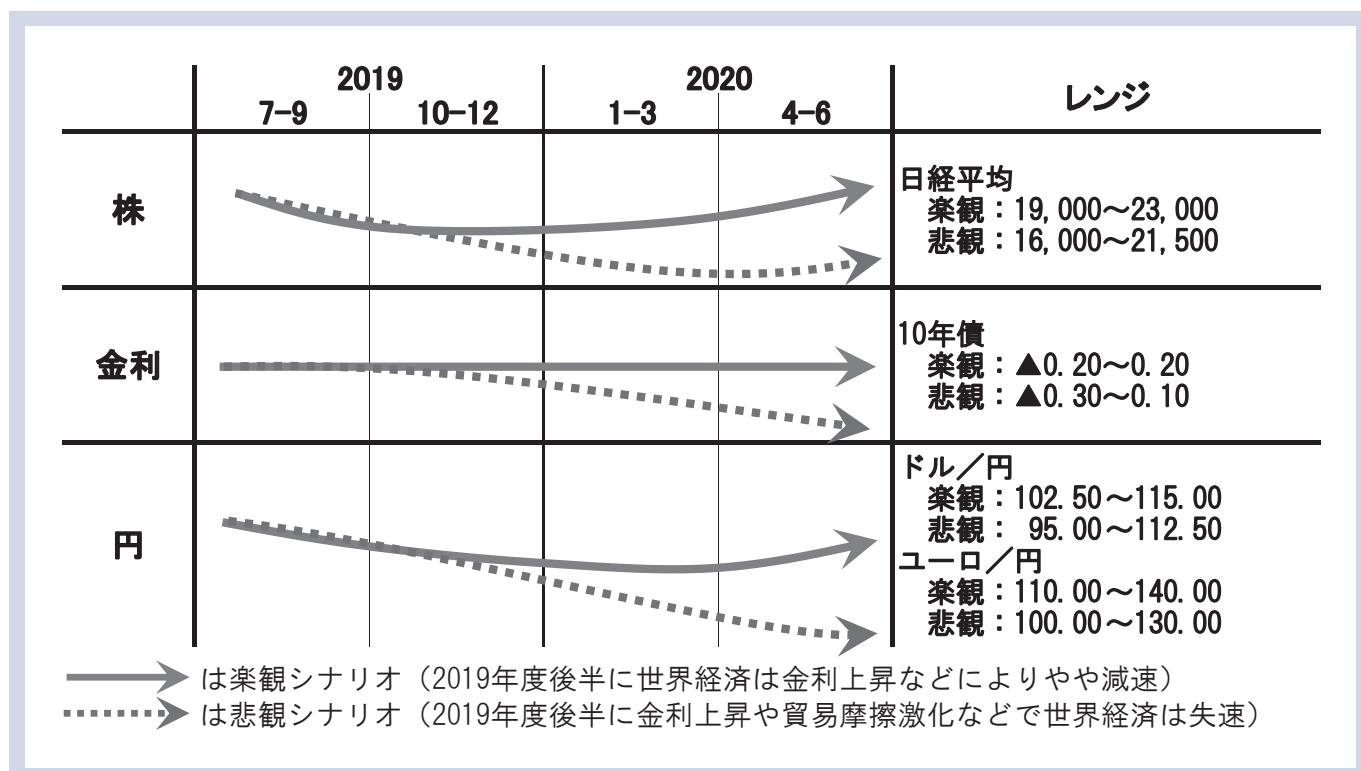
(8月2日時点)

グローバル経済・マーケット見通し

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	海外経済の減速に伴って輸出に頭打ち感がみられていることから、景気は足元で踊り場状態にある。中国をはじめとして海外経済に下振れリスクがあることに加え、10月には消費増税も控えるなど、景気の先行き不透明感も強い。当面、景気は停滞感の強い状況が続くことが予想される。
② 米国	世界景気の鈍化や、これまでの財政政策の効果の弱まりによって、米国景気は減速しよう。ただし、雇用・所得・資産残高の増加等による個人消費の押し上げを背景に潜在成長率を維持すると見込まれる。米中対立の激化、日本やEUとの通商摩擦、ブレグジット動向、世界経済の一段の減速、金融市場の過剰反応等が引き続きリスク要因だが、リスク顕在化の際には、FRBは積極的な金融緩和措置をとろう。
③ 欧州	海外景気の減速や貿易協議の不透明感が欧州景気に影を落としている。製造業の業況判断が一段と冷え込んでおり、今後も景気拡大の足かせとなりそうだ。これまで景気を下支えてきた雇用所得環境の改善ペースも鈍り始めている。欧州中央銀行(ECB)は追加の金融緩和を通じて景気の下支えに動くことが予想される。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の頭打ちが外需を通じて景気の重石になる。金融市場の環境変化は追い風になり得るが、米中摩擦が一段と激化する懸念もあり、中国依存度が高い国々が悪影響を受ける可能性には引き続き要注意である。他方、年末にかけては中国の刺激策の効果発現に伴いアジア新興国への下支え効果が期待される。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。
 レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正：↑ 下方修正：↓)